

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	ES細胞、組織幹細胞の増殖・分化機構の解明とその臨床応用に関する研究	研究代表者名	中畑 龍俊
-------	------------------------------------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア ( ) 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ ( ) 一部不十分である
- エ ( ) 達成していない

意見：  
幹細胞分化の基礎研究には成果が上がった。一方、臨床研究へのトランスレーションは実現に到らなかった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア ( ) 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ ( ) 一部貢献できた
- エ ( ) 貢献できていない

意見：  
通常の科学研究費レベルの成果は認められるが、新しい学問領域の創成ができたかどうかについては物足りないものがある。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア ( ) 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ ( ) 一部高く評価できる
- エ ( ) 高く評価できない

意見：  
ES細胞、体性幹細胞の分化研究について一定の成果はあげられた。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア ( ) 非常に高く評価できる
- イ ( × ) 概ね高く評価できる
- ウ ( ) 一部高く評価できる
- エ ( ) 高く評価できない

意見：  
国際的な評価を得るためにはさらなる努力が必要である。なお、NOG マウスは有用なモデル動物で、多くの研究者によって利用されている。

#### 4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

##### 総合的な評価意見：

ES 細胞、体性幹細胞の分化研究が意欲的に進められ、その成果の一部については高く評価できる。一方、全体として研究テーマが広すぎたこともあり、特定の問題に大きな breakthrough をもたらすような独創的な成果が得られたかどうかについては疑問が残る。研究代表者は、基礎と臨床研究の両方に十分な経験と能力があり、前者を後者にトランスレートしやすい立場にあるから、この点に関しての進展がなされるよう、今後の努力目標としていただきたい。